提供:国立研究開発法人 水産研究・教育機構

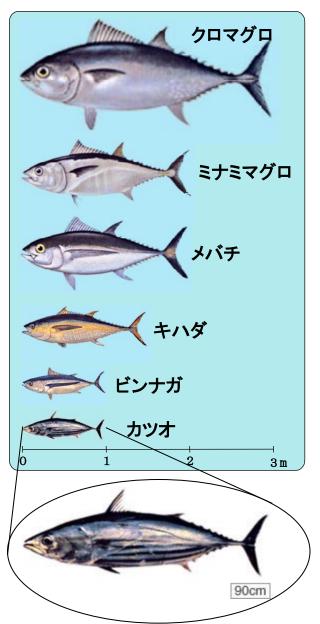
# かつお。まぐろ類に関する国際情勢について

令和7年10月 水 産 庁

## 目次

- 1. 主要なかつお・まぐろの種類
- 2. 漁業の種類
- 3. 世界のかつお・まぐろ類漁獲量の推移
- 4. 海域別、国別、魚種別のかつお・まぐろ類漁獲量
- 5. 我が国のかつお・まぐろ類供給量と価格
- 6. 我が国におけるクロマグロ養殖
- 7. かつお・まぐろ類の地域漁業管理機関
- 8. 主要なかつお・まぐろ類の資源状況

# 1. 主要なかつお・まぐろの種類



資料:日本かつお・まぐろ漁業協同組合

#### クロマグロ (Atlantic Bluefin Tuna / Pacific Bluefin Tuna):

地中海を含む大西洋、太平洋の主として北半球に分布(大西洋と太平洋で別種)。本マグロとも呼ばれ、マグロ類の中でも最高級品とされる。インド洋には分布しない。主に刺身に利用。

#### ミナミマグロ (Southern Bluefin Tuna):

南半球の高緯度海域を中心に分布。インドマグロとも呼ばれ、クロマグロに次ぐ高級品とされる。主に刺身に利用。

#### メバチ (Bigeye Tuna):

世界中の温帯から熱帯の海域に分布。目玉が大きくぱっちりしていることから目鉢マグロと呼ばれる。主に刺身に利用。

#### キハダ (Yellowfin Tuna):

メバチとほぼ同じ海域に分布。体色が黄色味がかっていることから黄 肌マグロと呼ばれる。刺身及び缶詰に利用。

#### ビンナガ (Albacore):

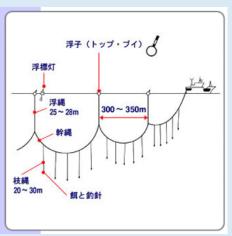
世界中の海に広く分布する小型のマグロ。長い刀状の胸びれが特徴 で油漬けの缶詰の原料になる。最近は刺身にも利用される。ビンチョウ、 トンボとも呼ばれる。

#### カツオ (Skipjack):

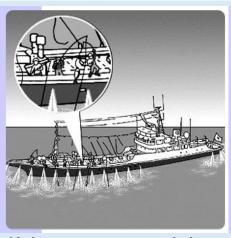
世界中の海に広く分布し、特に南方水域では一年中獲られる。腹側に濃青色のしまが入っているのが特徴。かつおは用途が広く、刺身、タタキ、節、缶詰等に利用される。

# 2. 漁業の種類

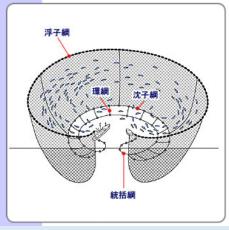
図:一般社団法人大日本水産会、長崎県



はえ縄



竿釣り ※図は一本釣り



まき網



曳き縄釣り

#### はえ縄

主にクロマグロ、 ミナミマグロ、 メバチ、キハダ、 ビンナガを対象

#### 竿釣り

主にカツオ、 ビンナガを対象

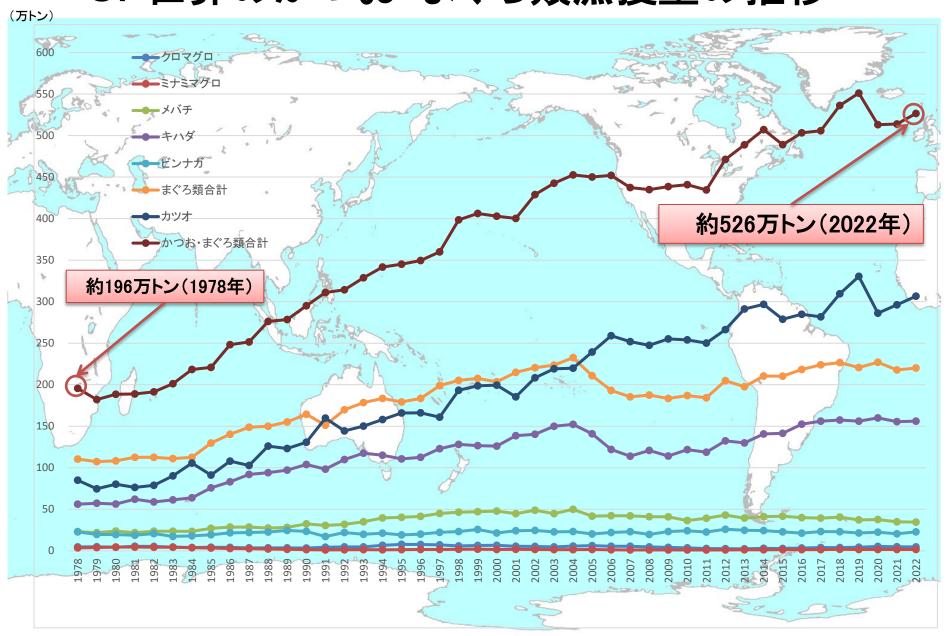
#### まき網

主にクロマグロ、 カツオ、キハダ を対象

### 曳き縄釣り

主にクロマグロ を対象

# 3. 世界のかつお・まぐろ類漁獲量の推移



3

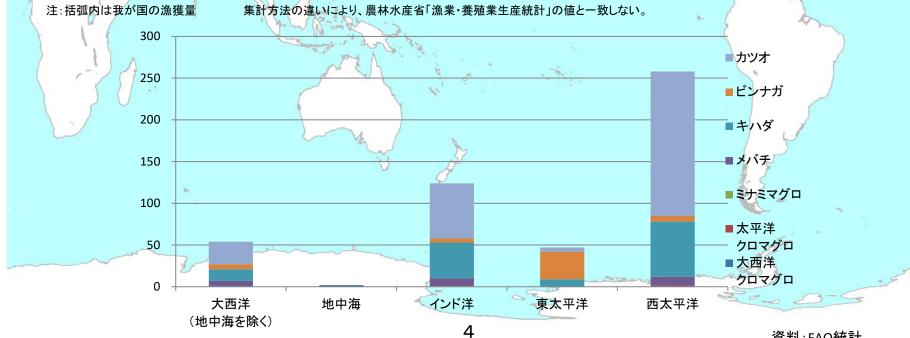
資料:FAO統計

# 4-1. 海域別のかつお・まぐろ類漁獲量(2022年)

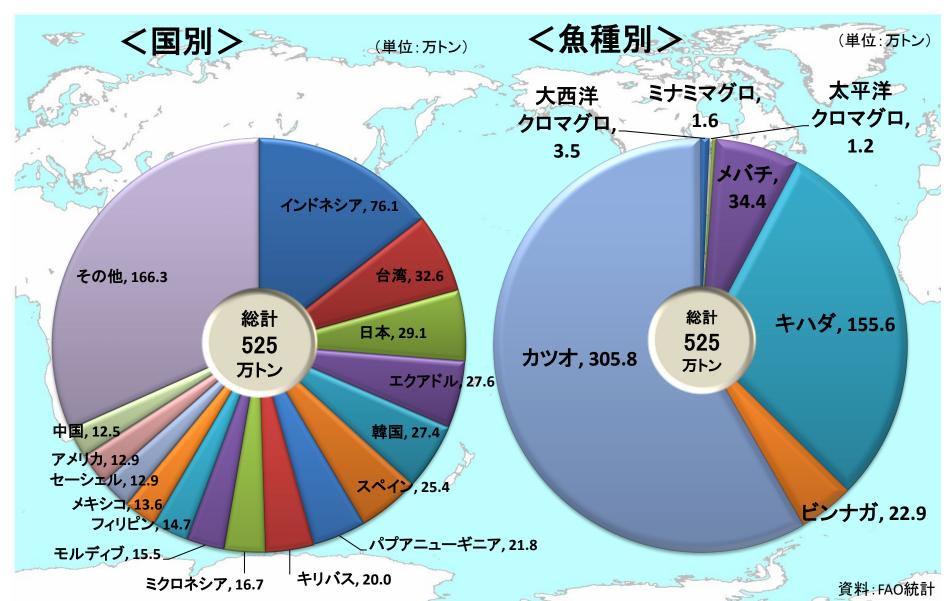
(単位: 万トン)

資料:FAO統計

975	合計	大西洋 クロマグロ	太平洋 クロマグロ	ミナミマグロ	メバチ	キハダ	ビンナガ	カツオ
大西洋	54.1	0.6	The same of the sa	0.2	6.0	14.3	5.6	27.4
(地中海を除く)	(2)	(0.1)	-	(0.1)	(1.2)	(0.4)	(0.2)	(0)
地中海	2.3	2.1	1		0.0	- 0.0	0.2	0.0
3	- ~ 5	12 -	- M.	·	- १९६	# 7	*->3	- 2
インド洋	123.2		· / £ -	1.0	9.0	42.5	4.9	65.7
of Comments	(0.9)	- 0-1	-	(0.2)	(0.3)	(0.2)	(0.2)	(0)
東太平洋	46.7	53	- كستوي	0.0	- 7	8.7	32.8	5.2
****	(0.6)	- 3	_	_	_	(0.4)	(0.1)	(0.1)
西太平洋	258.0	-10-	1.2	0.4	10.7	66.0	7.0	172.8
	(25.3)	(8- n	(1)	(0.2)	(0.9)	(4.3)	(1.6)	(17.2)
合計'	484.4	2.6	<b>1.2</b>	1.7	25.7	131.5	50.5	271.2
	(28.8)	(0.1)	(1)	(0.5)	(2.5)	(5.3)	(2.1)	(17.4)

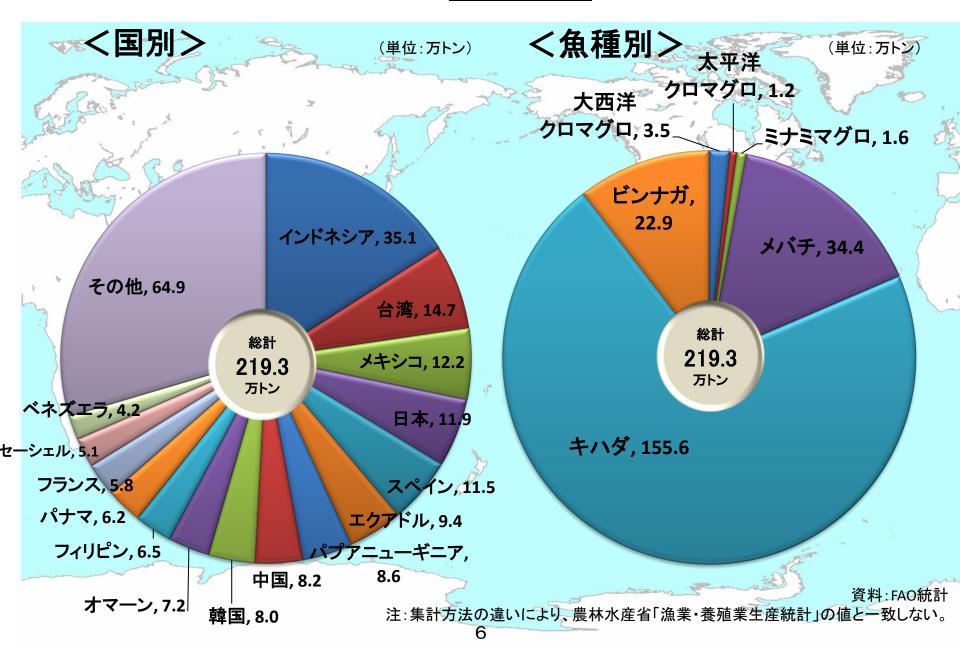


# 4-2. 国別/魚種別の<u>かつお・まぐろ類</u>漁獲量(2022年)

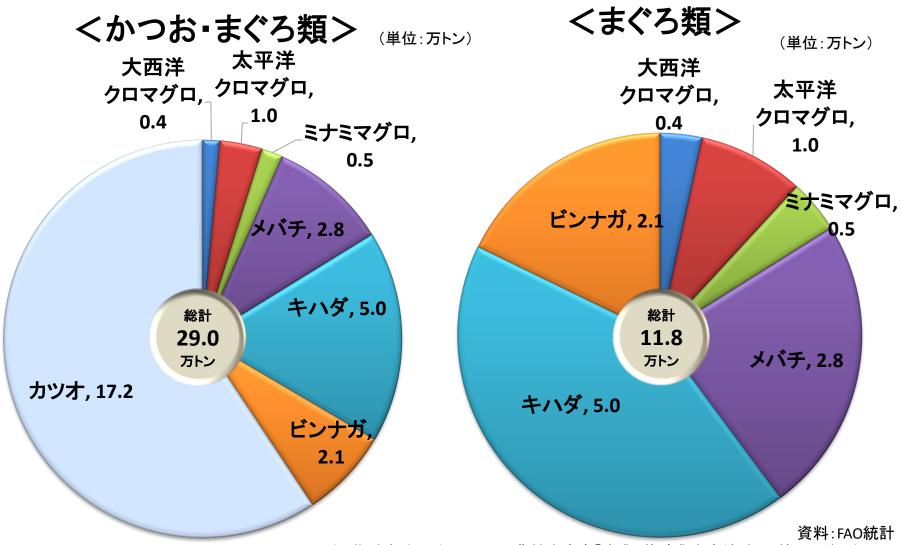


注:集計方法の違いにより、農林水産省「漁業・養殖業生産統計」の値と一致しない。

# 4-3. 国別/魚種別の<u>まぐろ類</u>漁獲量(2022年)



# 4-4. 我が国の<u>かつお・まぐろ類/</u> まぐろ類魚種別漁獲量(2022年暫定値)



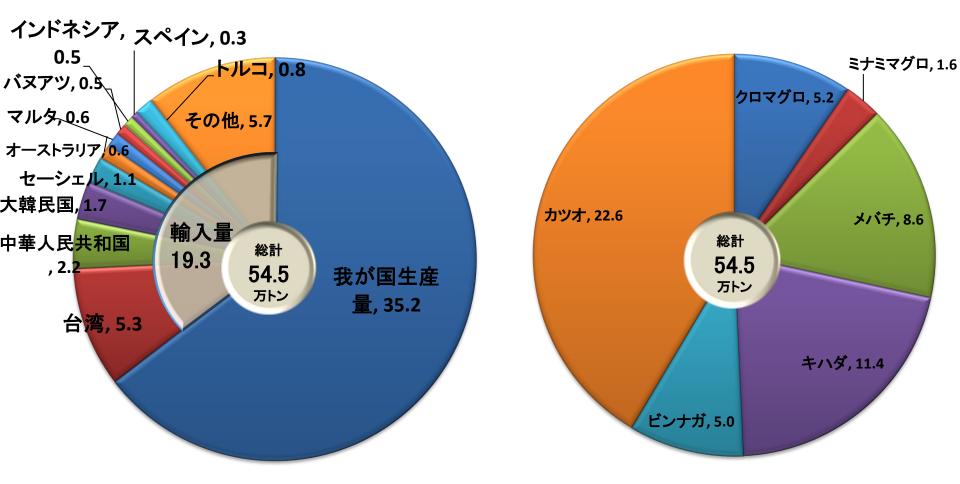
注:集計方法の違いにより、農林水産省「漁業・養殖業生産統計」の値と一致しない。

注:国内養殖生産量を含まない。

# 5-1. 我が国の生産国別/魚種別 かつお・まぐろ類供給量(2023年)

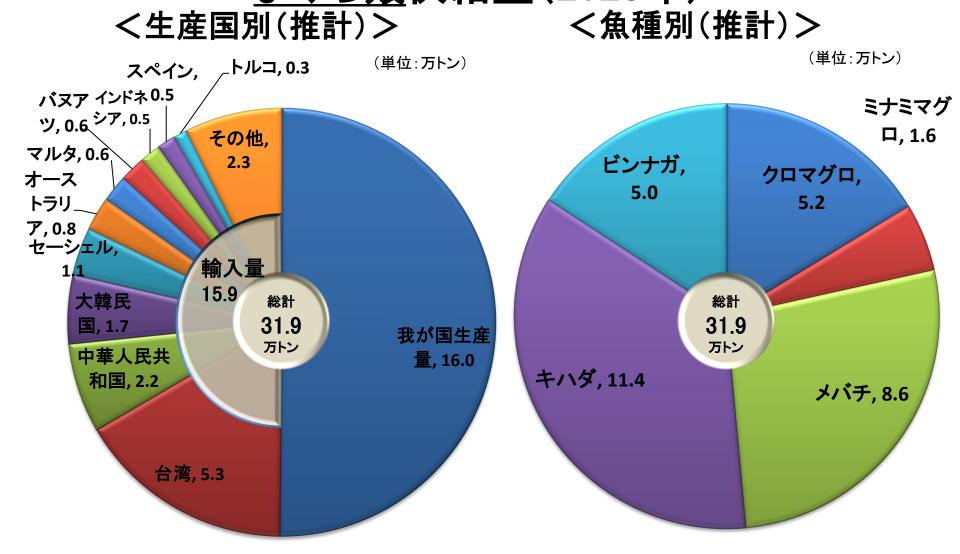
〈生産国別(推計)〉 〈魚種別(推計)〉

(単位:万トン)



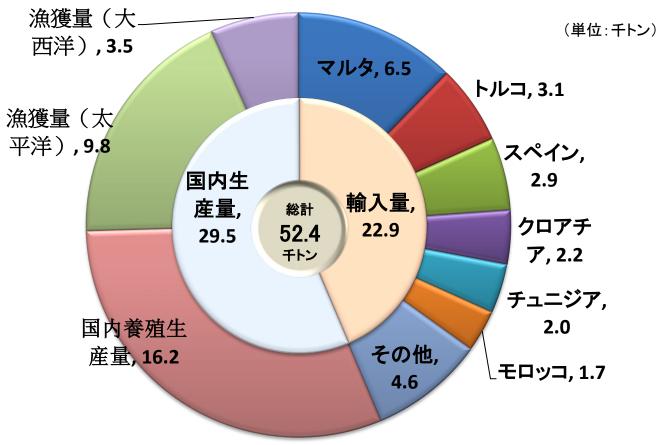
資料:農林水産省「漁業・養殖業生産統計」及び財務省「貿易統計」に基づく推計 注:国内養殖生産量(クロマグロ)を含む

# 5-2. 我が国の生産国別/魚種別 まぐろ類供給量(2023年)



資料:農林水産省「漁業・養殖業生産統計」及び財務省「貿易統計」に基づく推計 注:国内養殖生産量(クロマグロ)を含む

# 5-3. 我が国のクロマグロ供給量(推計)(2023年)



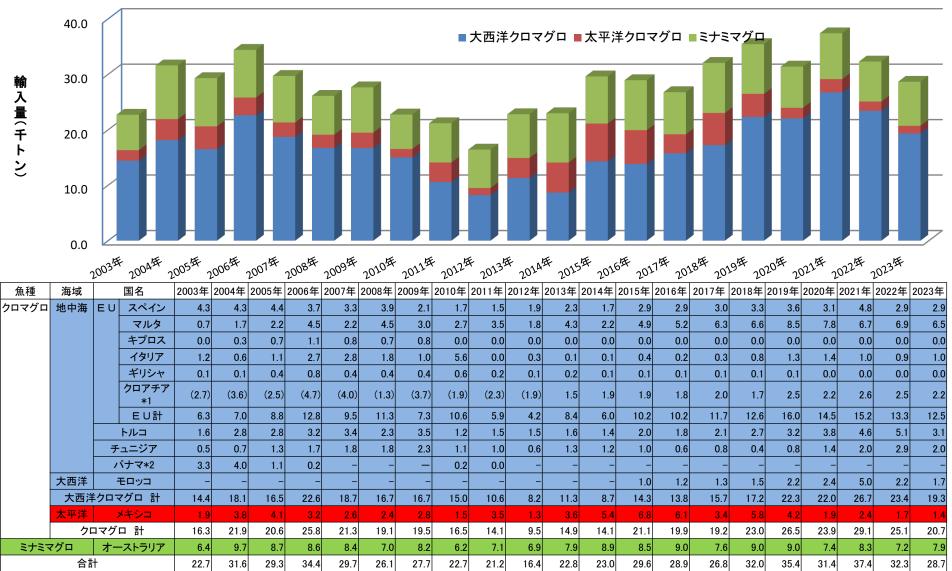
太平洋クロマグロ	国内漁獲量	約9,813トン(暫定値)		
	国内養殖生産量	約16,200トン		
	輸入量	約 2,454トン		
大西洋	国内漁獲量	約 3,699トン		
クロマグロ	輸入量	約23,191トン		

資料:ISC(暫定値)、農林水産省「漁業・養殖業生産統計」及び 財務省「貿易統計」に基づく推計

注:大西洋クロマグロの漁獲量は水産庁調べ(「8月~翌7月」) 注:魚種別(太平洋、大西洋)の輸入量は国名から推定

# 5-4. 我が国の養殖まぐろ輸入量の推移

養殖マグロ輸入量の推移(製品重量: 千トン)



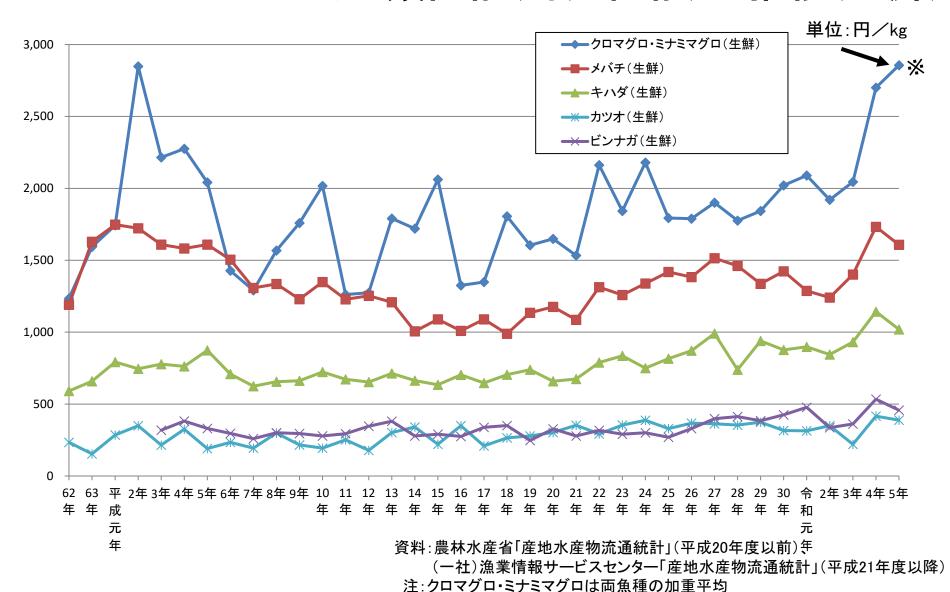
\*1:EUに加盟した2013年より合算

\*2:パナマ籍船舶において船上加工されたもので、原料は地中海産の養殖クロマグロと推定

資料:財務省貿易統計(国名及び魚種から養殖生産と推定)

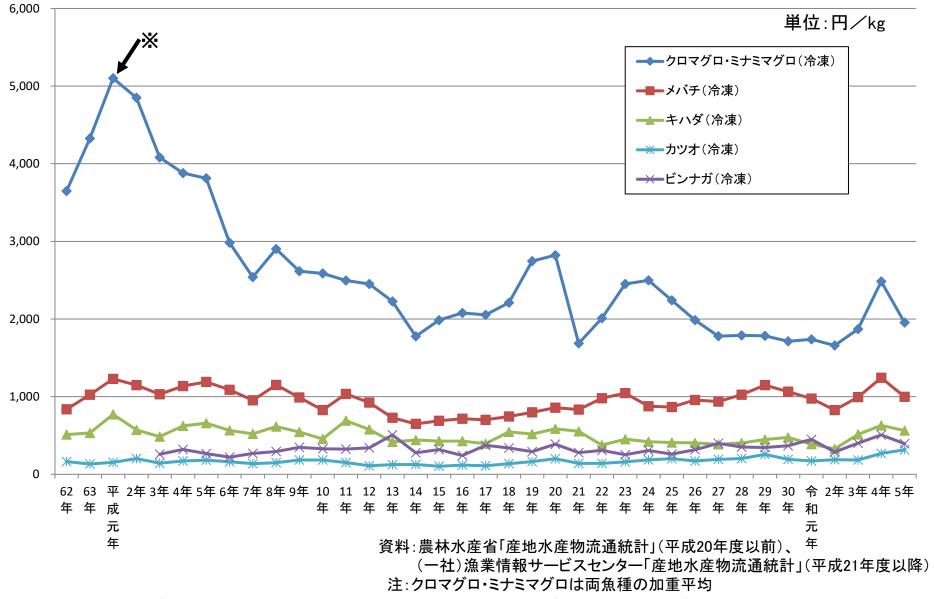
注:製品重量

## 5-5. かつお・まぐろ類価格(卸売価格)の推移(生鮮)



※「クロマグロ及びミナミマグロの加重平均価格」は、これまで平成2年(2848円/kg)がピークであったところ、 令和5年に最高値(2856円/kg)を更新した。 12

## 5-6. かつお・まぐろ類価格(卸売価格)の推移(冷凍)



※ バブル経済下での高級品需要の高まりにより「クロマグロ及びミナミマグロの加重平均価格」は、 平成元年がピーク(5,101円/kg)となった。 13

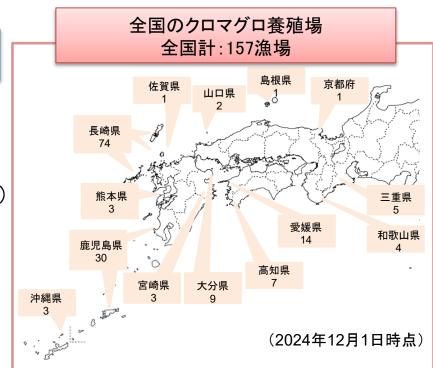
# 6. 我が国におけるクロマグロ養殖

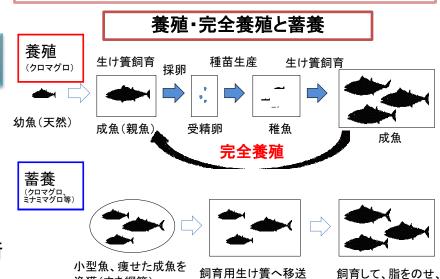
### クロマグロ養殖の現状

- ・ クロマグロは、水温、水質等の条件に恵まれた地域 や養殖種苗の漁獲地の近くなどで養殖。
- ・ 全国のまぐろ類養殖の経営体数は、73経営体(157漁場)
- 国内では、曳き縄釣りで漁獲した全長20~30 cm、
  体重100~500 g 程度の幼魚(ヨコワ)等を生け簀に入れ
  2~3年飼育して出荷するスタイル。
  - \*経営体数、漁場数は令和6(2024)年12月1日時点

### クロマグロ養殖の課題

- ・ 天然資源に頼らずに養殖を行うための、人工種苗の 量産技術の開発
- 養殖用配合飼料の開発
- ・ 海象条件等の厳しい海域での養殖を可能とする技術 開発 14



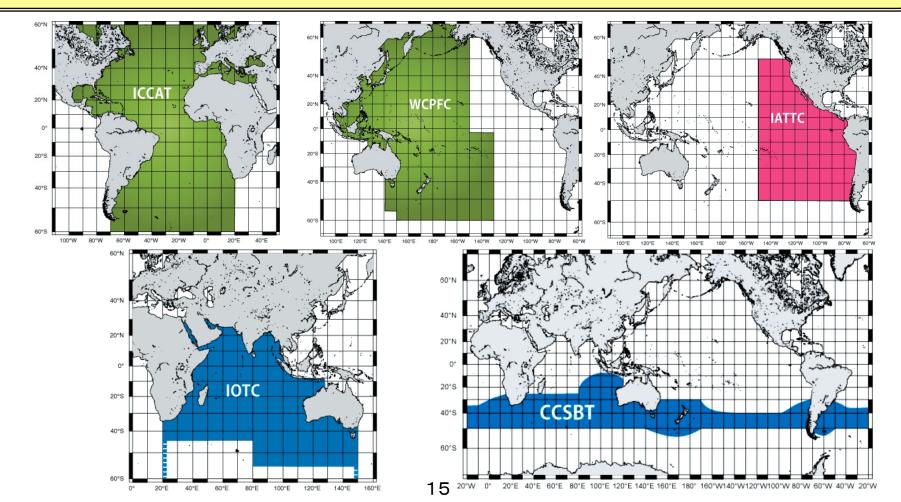


成長させる

漁獲(まき網等)

# 7-1. かつお・まぐろ類の地域漁業管理機関(RFMO) Tunas Regional Fisheries Management Organization

- O 5つのRFMOが全世界の海洋を管理。我が国はすべてのRFMOに加盟。
- O RFMOは魚種ごとの資源状況等を踏まえ種々の資源管理措置を実施。
- 〇 我が国にとって特に重要なのは、我が国排他的経済水域を管理する中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)と 大西洋くろまぐろを管理する大西洋まぐろ類保存国際委員会(ICCAT)。



### 7-2. RFMOにおける主な規制措置



#### WCPFC(中西部太平洋まぐろ類委員会)

〈年次会合:毎年12月開催〉

- ①熱帯マグロ(メバチ・キハダ・カツオ)
- (a) 熱帯水域のまき網漁業(2024~2026年の措置)
  - ・集魚装置(FAD)操業の禁止(1.5ヶ月)
  - ・公海は追加で1ヶ月FAD操業禁止
  - 島嶼国以外のメンバーは自国籍大型まき網漁船隻数凍結
- (b) はえ縄漁業

我が国のメバチの漁獲枠は18,265トン※。

※オブザーバーカバー率(現行5%義務)の増加に応じて、漁獲上限を最大 10%増やすことが可能。

#### ②太平洋クロマグロ

- (a) 30kg未満小型魚の漁獲制限全体:5.125トン 日本:4.407トン
- (b) 30kg以上の大型魚の漁獲制限全体: 11,609トン 日本: 8,421トン



#### IATTC(全米熱帯まぐろ類委員会)

〈年次会合:毎年7月又は8月開催〉

- ①メバチ・キハダ(2022~2024年の措置)
- (a) まき網漁業
  - •72日間の全面禁漁(メバチの漁獲量に応じて禁漁期間を延長)
  - ・沖合特定区での1か月間の禁漁
  - ·集魚装置(FAD)の使用数制限
- (b) はえ縄漁業: 国別メバチ漁獲枠の設定(我が国漁獲枠は32,372トン)。

#### ②太平洋クロマグロ

- (a)暫定回復目標達成後10年以内に60%以上の確率で初期資源量の 20%まで回復させる。
- (b) 商業漁業については、2021~2022年の漁獲量の合計が7,295トン、2023~2024年の漁獲量の合計が7,990トンを超えないように管理する。
- (c) 漁獲のうち、30キロ未満の小型魚の漁獲比率を50%以下とするよう努力。



### ICCAT(大西洋まぐろ類保存国際委員会)

〈年次会合:每年11月開催〉

- ①MP(管理方式)による総漁獲可能量(TAC)の管理 (東大西洋クロマグロ 2023~2025年漁期::40,570t、東大西洋クロマグロ 2023~2025年漁期::2,726t)。
- ②30kg未満の大西洋クロマグロの採捕、保持、水揚げを原則禁止。
- ③保存管理措置に反したクロマグロの輸出入の禁止と、養殖の監視 措置等クロマグロの管理を強化。
- ④運搬船へのオブザーバー乗船による、はえ縄漁船の洋上転載監視制度の導入。
- ⑤クロマグロに対する漁獲証明制度(CDS)の導入。

### IOTC CTOI

#### IOTC(インド洋まぐろ類委員会)

〈年次会合:毎年5月又は6月開催〉

- ①キハダについて、過去の漁獲量に応じ、国別漁獲上限の設定。 (a)2014年水準から21%削減、(b)2017~2019年の最大漁獲量以下 に制限(我が国)、(c)2,000トン以下に制限。
- ②MP(管理方式)によるメバチの総漁獲可能量(TAC)の管理 (2024~2025年漁期:80,583t)。
- ③まき網漁業について、小型魚が多く漁獲される集魚装置(FAD)の 使用可能回数の制限。
- ④運搬船へのオブザーバー乗船による、はえ縄漁船の洋上転載監視制度の導入。



#### CCSBT(みなみまぐる保存委員会)

〈年次会合:毎年10月開催〉

- ①MP(管理方式)によるミナミマグロの総漁獲可能量(TAC)の管理。 (2024~2026年漁期: 20.647t)
- ②ミナミマグロに対する漁獲証明制度(CDS)の導入。
- ※2024年3月1日現在の情報です。 最新の会議結果についてはプレスリリースをご覧ください。

16

# 8. 主要なかつお・まぐろ類の資源状況

魚種	ICCAT 大西洋	IOTC インド洋	IATTC 東部太平洋	WCPFC CCSBT 中西部太平洋 ミナミマグロ
クロマグロ	東大西洋:	and the	The state of the s	
	西大西洋: -/-	35		
ミナミマグロ		Jan		+/-
メバチ	-2+	+/+	-/-	->
キハダ	-/-		-/-	-/-
	北大西洋:	In John	0	北太平洋:
ビンナガ	南大西洋: ー/ー		<b>&gt;</b>	南太平洋:
カツオ	-/-	-/-	-/-	ー/ー ***********************************

(注)「資源水準/漁獲圧」の順に表示

資料:水産庁「令和6年度 国際漁業資源の現況」、ICCAT SCRSレポート(2023)

資源水準:乱獲状態である場合は「+」、乱獲状態でない場合は「-」に区分。

漁獲圧:過剰漁獲である場合は「+」、過剰漁獲でない場合は「-」に区分。